

ごあいさつ

皆様方には、平素より私ども八幡信用金庫をご利用、お引き立ていただき、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。

本年も当金庫をより一層ご理解いただくため、ディスクロージャー誌2024「はちしんナウ」を発刊いたしました。本誌をご一読いただき、当金庫をさらに身近に感じていただければ幸いです。

令和5年度の国内経済は、新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが「2類」から「5類」に引き下げられたことによって社会経済活動の正常化が進み、緩やかな回復基調を辿りました。

金融面では、日本銀行によるマイナス金利政策が解除され、国内金利は上昇基調に転じましたが、米国の根強いインフレ圧力によって海外金利の高止まりが続いており、日米金利差を意識した歴史的な円安に歯止めがかからない状況が続いております。

当地域経済は、コロナ禍による影響が大きかった観光関連産業が回復傾向にあることに加え、製造業等他業態においても、資材・エネルギー価格の高騰や人手不足といった経営上の課題を価格転嫁等によって克服し、業況は上向きつつあります。

こうした環境下、当金庫は令和5年度を計画初年度とする中期経営計画「創造、そして未来へ」（令和5年度～令和7年度）をスタートさせ、コロナ禍で大きな影響を受けた地域経済の再生に取り組むとともに、前中期経営計画で確立させた営業体制の深化を図ってまいりました。この結果、令和5年度の業績につきましては、預積金残高が前期比1億70百万円増加の1,231億42百万円、貸出金残高は前期比7億14百万円増加の325億53百万円となりました。

また、収益面では、運用残高の増加と円安効果によって有価証券利息配当金が前期比3億6百万円増加の11億86百万円となるとともに、年度を通じた機動的運用によって国債等債券売却益では前期比2億9百万円増加の3億60百万円を確保し、経常利益は前期比4億50百万円増加の8億38百万円、当期純利益は前期比3億75百万円増加の5億78百万円となりました。

当金庫を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、中期経営計画2年目となる令和6年度は、経営環境の変化を踏まえた新たな施策に取り組むとともに、金融仲介機能とコンサルティング機能を十分に発揮し、役職員一丸となって地域経済の活性化と持続的な発展に貢献してまいりますので、今後ともご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



令和6年7月

理事長

木下節夫

はちしんナウ

はちしんの健全性
確保への取り組み

はちしんと地域社会

中期経営計画

商品・サービス

はちしんのあゆみ

資料編

店舗のご案内